

分析と考察

2、授業内容及び学習者の内容理解に関する質的な分析

(1) 学習者に対する質問の特質

- - 「日本語教育と国語教育を統合した学習モデル」を用いて

ここでは「日本語教育と国語教育を統合した学習モデル」を用いて、学習者に対する質問の特質を探っていきたい。質問の特質に注目したのは、このことによって外国人児童生徒に対する授業のねらいや方向性が明らかになると考えたためである。[資料]に添付したデータは、授業のテープを文字起こしする、・読解に関わるすべての質問を「学習モデル」の枠組みにしたがって分類するという手順を踏んで作成したものである。また、分析の対象としたのは次の6種類の授業である。

【表 - 19 分析対象とした授業一覧】

対象（授業実施時期）	教材名	備考
学習者Sの授業 （1999年12月～2000年2月） O小学校での授業（1999年10月）	『海の命』 （小学6年、光村図書）	Sにとっては支援開始直後の教材である。
学習者Sの授業（2000年5月～6月） 学習者Rの授業（2000年5月～7月）	『そこまで飛べたら』 （中学1年、光村図書）	Sにとっては支援開始5ヶ月後、Rにとっては2ヶ月めにあたる。
学習者Rの授業（2000年8月～10月） B中学校での授業（2000年9月）	『大人になれなかった弟たちに...』 （中学1年、光村図書）	Rにとっては支援開始4ヶ月後の教材である。

- (注) 1, O小学校は、学習者Sの在籍校ではなく、近隣の小学校である。
 2, O小学校では『海の命』の学習を行うにあたり「課題学習」という方法を採用している。そのため授業で出された課題はすべて児童の話し合いによって設定されたものである。
 3, B中学校は学習者Rの在籍校である。
 4, 学習者Sの『海の命』と、学習者Rの『大人になれなかった弟たちに...』は、在籍クラスの授業に先行する形で行われたものである。

これらの授業を分析に取り上げたのは、扱った教材のジャンルが共通していることによる。ジャンルが違えば読解に求められる力や技能は当然異なり、比較の対象とはなりにくい。7ヶ月間の学習支援の中では文学的文章と呼ばれるジャンルに分類される文章が一番多かったことから、『海の命』『そこまで飛べたら』『大人になれなかった弟たちに...』という3つの教材を分析対象とすることにした。

【表 20】『海の命』：学習者Sに対する質問とO小学校の授業における質問（課題）の比較

学習者Sに対する質問		O小学校の授業における質問	
「学習モデル」の第4段階の質問		「学習モデル」の第4段階の質問	
「学習モデル」の第4段階の質問	「学習モデル」の第5段階の質問	「学習モデル」の第4段階の質問	「学習モデル」の第5段階の質問
語句の意味に関わる質問	登場人物や人物の行動に関わる質問		
13例	39例	-	-
52例（75%）		4例（15%）	23例（85%）

【結果】

1, Sの授業では、「学習モデル」の第4段階「分析：情報の獲得をする」に分類される質問が全体の75%を占め、第5段階「総合：関係性を見つけるために情報を使う」の質問の3倍になっている。

2, 第4段階に属する質問の出現状況を調べてみると、全6場面中の第1場面に全体の約4割が集中していた。

3, 第4段階の質問52例のうち、語句の意味に関するものは13例(25%)で、登場人物や人物の行動に関するものは39例(75%)であった。

4, O小学校の授業では、第4段階の質問が全体の15%、第5段階の質問は85%にのぼる。

5, O小学校の授業での第4段階の質問は、すべて語句の意味に関するものであり、しかも比喩表現の意味をとらえるものであった。

【表21】『そこまで飛べたら』: 学習者Sに対する質問と学習者Rに対する質問の比較

学習者Sに対する質問			学習者Rに対する質問		
第4段階の質問		第5段階の質問	第4段階の質問		第5段階の質問
語句の意味に関わる質問	登場人物や人物の行動に関わる質問		語句の意味に関わる質問	登場人物や人物の行動に関わる質問	
7例	51例	-	18例	49例	-
58例(83%)		12例(17%)	67例(88%)		23例(12%)

【結果】

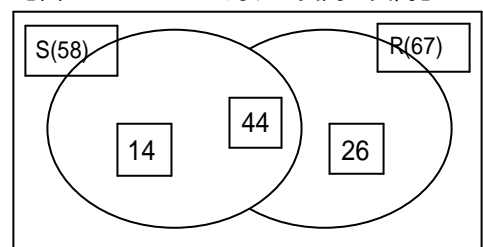
1, Sに対しては第4段階の質問が全体の83%を占め、第5段階の質問は17%であった。一方Rの授業では第4段階の質問が全体の88%、第5段階の質問は12%となっている。

2, Sの授業について、第4段階の質問の出現状況を調べてみると、全8場面中の第5場面に全体の25%が集中している。この傾向はRも同様であった。

3, Sに対して行った第4段階の質問58例のうち、語句の意味に関するものは7例(12%)で、登場人物や人物の行動に関するものは51例(88%)であった。Rに対する質問では、語句の意味が18例(27%)、登場人物や人物の行動に関するものは49例(73%)となっている。

4, 学習者SとRに対する質問の異同を調べてみると、右図に示すように全部で44例が両者に共通したものであった。Sのみに設定しRには行わなかった質問(14例)は、「塾」「受験」など日本の学校生活特有の用語が含まれているもの、様子や情景の説明が求められるものである。Rにのみ行った質問(26例)は語句の意味に関するものがほとんどである。

【図-6 SとRに対する質問の異同】



【表-22】『大人になれなかった弟たちに...』:

学習者Rに対する質問とB中学校の授業における質問の比較

学習者Rに対する質問			B中学校の授業における質問		
第4段階の質問		第5段階の質問	第4段階の質問		第5段階の質問
語句の意味に関わる質問	登場人物や人物の行動に関わる質問		語句の意味に関わる質問	登場人物や人物の行動に関わる質問	
10例	41例	-	6例	16例	-
51例(84%)		10例(16%)	22例(61%)		14例(39%)

【結果】

- 1 , Rの授業では第4段階の質問が全体の84%を占め、第5段階の質問は16%であった。
- 2 , Rの授業について、第4段階に属する質問の出現状況を調べてみると、全6場面中の第1場面に全体の24%が集中していた。
- 3 , Rに対して行った第4段階の質問51例のうち、語句の意味に関するものは10例(20%)で、登場人物や人物の行動に関するものは41例(80%)であった。なお、語句の意味の中で、10例中4例は戦争中という作品の背景に関わるものであった。
- 4 , B中学校の授業では第4段階の質問が全体の61%で、第5段階の質問は39%である。
- 5 , B中学校の授業で、語句の意味に関する質問6例のうち、3例は「配給」など作品の背景に関わる語句、2例は「盗み飲み」など人物の心情把握の手がかりとなる語句、1例は「桃源郷」で、子どもが日常使わない語彙であった。
- 6 , B中学校の授業における第4段階の質問は、すべて教師と生徒の口頭によるやりとりによって行われている。

3組のデータを総合的にみても、次のような傾向を指摘することができる。

学習支援の授業では、「日本語教育と国語教育を統合した学習モデル」の第4段階「分析：情報を獲得する」に相当する質問が全体の8割程度を占めている。一方、O小学校では15%とかなり数値が低い。これは、O小学校での学習方法が課題解決型であったため、登場人物や人物の行動に関する部分の理解は、各児童の中で、あるいは班での話し合いの中で消化されてしまったためと考えられる。またB中学校では第4段階の質問の割合が61%となっているが、これらはすべて口頭によるやりとりで解決されている。

このようなことから、学校現場における第4段階の質問とはいわば中心的な課題に入るための「確認作業」のようなものであり、それらは児童や生徒個人の中で、あるいは教師との口頭によるスピーディーなやりとりの中で解決されるべきもの(解決できるもの)と位置づけられている。ここに、学習支援の授業と学校の授業との大きな相違点を見ることができる。同じ教材を扱いつつも、両者の授業では内容やねらいが質的に異なるのである。

第4段階の質問の出現状況は、作品の構成によって異なる。

第4段階の質問のうち、語句の意味に関するものは

- ・学習者Sの場合：13例(1999年12月) 7例(2000年5月)
- ・学習者Rの場合：18例(2000年5月) 10例(2000年8月)

と減少傾向を見せている。もちろん、教材の含まれる語彙のレベルは一定ではないことから単純には比較できないが、それでも授業で取り上げる語彙の数が減少していることは、SやRの語彙量が時間の経過とともに増えていることを示唆していると考えられよう。

学校における授業でも語句の意味に関する質問は行われているが、それらは、

- ・ 比喩表現(「(人を)杖の代わりに使う」など)
- ・ 作品の背景に関わる語句(「配給」など)
- ・ 子どものふだんの生活になじみのない語句(「桃源郷」など)
- ・ 心情把握の手がかりになる語句(「盗み飲み」など)

というもので、SやRの授業で取り上げた「父」「心配」「悲しい」のような一般的な語句は全くなかった。ここにも学習支援の授業と学校の授業との質的な差が認められる。

学習支援の授業では、第5段階「総合：関係性を見つけるために情報を使う」に相当する質問は第4段階に比べてかなり少ない。しかしその実態を『海の命』を例に調べてみると、Sが反応のよさや確かさが見えてくる。

【表 - 23 第5段階の質問に対するSの応答結果 - 『海の命』の場合】

第5段階の質問	1*	2 比喻	3	4* 心情	5*	6 心情	7 情景	8	9	10	11	12	13	14*
Sの答え		x		x			x							

(「*」のついている質問は、学校で行われた質問と共通のものである)

(: 十分答えられた、x : 答えられなかった、 : 答えられたが不十分だった)

『海の命』の学習では、補助的な質問をしても最後まで正しく答えられなかったものは14例中4例で、10例は自分の考えを言葉で表現しながら解答することができている。

同様に他の3教材についても調べてみると、次のような結果が得られた。

【表 - 24 第5段階の質問に対するSとRの応答結果】

	第5段階の質問数	学習者の応答	
			x /
学習者S 『そこまで飛べたら』	12	9	3 (様子x2、心情)
学習者R 『そこまで飛べたら』	9	8 (選択肢1)	1 (心情)
学習者R 『大人になれなかった弟たちに...』	9	5	4 (行動の理由x2、心情、行為の善悪)

(注) : 十分答えられた x : 答えられなかった : 不十分だった

学習支援の授業では第5段階の質問は確かに少ない。しかし、質問に対する応答結果において注目すべき点は少なさではなく、数少ないながらも第5段階のレベルに相当する質問が存在し成立し得たということなのではないだろうか。日本語力が十分でないSやRの場合でも、学年相当の教科書を読んで叙述されたことを解釈したり、叙述されていることを手がかりに推論したり想像したりする活動を行うことが不可能ではないのである。

(2) 学習者に対する質問のレベルと学習者の到達度

- 「国語の学習(読むこと)に必要な思考力の育成モデル」を用いて

前項では学習支援の場での学習者に対する質問の特質について明らかにしてきたが、ここでは質問のレベルについて日本の小中学校のどの学年段階に相当するものであるのかを検討していく。さらには内容理解に関する学習者の到達度にも言及していきたい。学年段階を測る物差しとしては「国語の学習(読むこと)に必要な思考力の育成モデル」を用いる。

手順としては、「思考力の育成モデル」の中から「語句の意味」と「文学的文章に関わる力」に含まれる項目を取り出し、それらの項目にしたがって授業で行った質問と学習者の応答を整理した。【表 - 25】は『海の命』(学習者S)の授業についてまとめたものである。

【表 - 25 「思考力の育成モデル」の各項目に相当する質問 - 『海の命』の場合】

文学的文章を「読むこと」に必要な思考力		学習者Sの：海の命jの学習の場合
1, ことばの意味を理解する力 ・言葉の意味が分かる(小1~) ・言葉や文の意味を正しくとらえる(小5から) ・文章の中での語句の意味をとらえる(中1~)		<ul style="list-style-type: none"> ・「父」() ・「漁師」(×) ・2メートルってどの位? ・「村」(×) ・「まるで動かない」() ・「無理に」() ・「悲しい」(×) ・「さびしい」(×) ・ジュニアハイスクールってなんだろう(×) 「ここはお前の海だ」ってどういうこと?()
2, あらすじを理解する力 ・あらすじがわかる(小1~) ・誰が/どうしたかわかる(小1~) ・人物相互の関わりをとらえる(小4~) ・内容のつながりを理解する(小5~)	場面1	<ul style="list-style-type: none"> 太一は海のこと、好き、嫌い?() 太一は何になりたいですか() どうしてお父さん、帰らなかったの?() お父さんのそばには何がいましたか()
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校終わってからどうなったの?() ・誰が無理にお願いしたの?()
	3	<ul style="list-style-type: none"> ・「村一番の漁師」、何が一番なの?() ・与吉じいさん、どうなっちゃったんだっけ() ・おじいさんはどこへ帰ったんだっけ()
	4	<ul style="list-style-type: none"> ・お母さんどんなこと心配してる?(×) ・太一はお父さんの死んだ海に行ったの?()
	5	<ul style="list-style-type: none"> ・太一は海で何に会ったの?() ・太一はクエをつかまえて殺しましたか()
	6	<ul style="list-style-type: none"> ・太一は誰と結婚しましたか() ・太一の子どもは何人ですか() ・太一は漁師を続けましたか() ・太一はクエを殺さなかったことを話しましたか()
3, 様子を想像する ・様子を思い浮かべる(小1) ・様子を想像する(小2~) ・情景を表す表現に気をつけながら読む(小4~)		<ul style="list-style-type: none"> ・(お父さんは)どんなふう魚をとるの?() ・おじいさんも潜ってとるの?() ・クエはどんな魚でしたか(~)
4, 心情を想像する (1)・人物の気持ちかわかる(小2~) ・気持ちや様子を表すことばを見つける(小2~) ・人物の心情を豊かに想像する(小5~) (2) ・人物の行動と気持ちのつながりがわかる(小3~) (3)・前景描写と心情のつながりに気づく(小5~)		<ul style="list-style-type: none"> おじいさんが海に帰ったとき、太一はどんな気持ちになった?(×) ・太一はクエのことをどう思いましたか()
		<ul style="list-style-type: none"> なぜ太一はクエを殺さなかったのですか() ・「お父さんここにいたんですね」太一はクエのことを誰だと思ってるの?()
5, 作品の主題を考える(小5~)		<ul style="list-style-type: none"> 「千匹に1匹でいいんだ」 どうして1匹だけでいいんだろう() 1匹だけとれば何がずっと生きていけるのか(×) ・海の命は変わりましたか() どうして?() 「海」は何を表すのか()
6, 自分の感想や意見をもつ ・人物に関して思いや考えをもつ(小1~) ・自分とは違う物の見方や感じ方に気づく(小4~) ・自分なりの意見をもつ(小6~)		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【学習者からの発言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・太一と自分は「同じ」。(12/8) ・「太一じゃなくてスカットの海」にしたい。(1/12) ・太一はヒーローだ。(1/19) </div>
7, 表現を味わう		
8, その他 (1) 登場人物をとらえる		<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの名前は何ですか() ・太一は女の子、男の子?() ・お父さん、どんな仕事してた?() ・魚、なんて名前?() ・おじいさんの名前は?() ・おじいさんの仕事はなんだったの?()

(印は、学校の授業と共通の発問)

他の2つの教材についても同様の手順で整理し(【表-26】参照)結果についての分析を述べていく。

【表-26 「思考力の育成モデル」の各項目について、相当する質問の有無と応答結果】

文学的文章を読むこと」に必要な思考力	海の命(S)	海の命(O小)	そこまで飛べたら(S)
1,ことばの意味を理解する ・言葉の意味が分かる(小1~)		-	
・言葉や文の意味を正しくとらえる(小5から)		-	
・文章の中での語句の意味をとらえる(中1~)	-	あり	-
2,あらすじを理解する ・あらすじがわかる(小1~)		-	
・誰が/どうしたかわかる(小1~)		-	
・人物相互の関わりをとらえる(小4~)		-	
・内容のつながりを理靡する(小5~)		-	
3,様子を想像する ・様子を思い浮かべる(小1)		-	
・様子を想像する(小2~)			
・情景を表す表現に気をつけながら読む(小4~)	-	-	
4,心情を想像する (1)	×	あり	-
・人物の気持ちがわかる(小2~)			
・気持ちや様子を表すことばを見つける(小2~)	×	あり	
・人物の心情を豊かに想像する(小5~)	-	あり	-
(2)			
・人物の行動と気持ちのつながりがわかる(小3~)		あり	×
(3)			
・情景描写と心情のつながりに気づく(小5~)	-	-	-
5,作品の主題を考える(小5~)		あり	
6,自分の感想や意見をもつ ・人物に関して思いや考えをもつ(小1~)		あり	
・自分とは違うものの見方感じ方に気づく(小4~)	-	あり	-
・自分なりの意見をもつ(小6~)	-	あり	
7,表現を味わう ・優れた表現がわかる(小3~)	-	あり	-
・情景表現を味わう(小5~)	-	あり	-
・優れた描写や叙述を味わう(小6~)	-	あり	-
8,その他 (1)登場人物をとらえる.		あり	-

(表の見方) : 十分理解できた
: 不十分な答えだった
× : 答えられなかった

- : 該当する質問はなかった
あり : 該当する質問があった

【結果】

1、「言葉の意味の理解」に関しては、本文に含まれるすべての言葉を理解することはもちろんできていない。しかし、あらすじを掴んだり、様子や心情さらには主題の把握につながる語彙については、母語訳のテープや辞書、教師とのやりとりによってある程度理解できているといえる。

2、あらすじの理解は十分にできている。小学校4，5年生以上の課題をこなせているといえる。ただし、時制がしばしば転換する作品（『そこまで飛べたら』のように回想部分が随所に入り込む作品）では誤解や混乱が生じた。

3、学習者Sの場合、「様子の想像」は、初めの頃は挿し絵や母語訳テープを手がかりに行っていた。

S：(挿し絵を見ながら)魚いっぱい。
T：魚いっぱい、ああ、そういうところでつりをしたの。 (1999年12月8日の授業記録より)

《テープ》

T：誰が？
S：あのね、お父さんがね、海行って、と、とるの、魚を。
T：どんなふうにとるの？
S：うーん。
T：こういうふうにとるの？そうじゃなくて。
S：(ジェスチャー)
T：そうそう。
(中略)
S：死んじないの？***。(注/そんな深いところまで行って「死んでしまわないのか」という意味)
T：どうやってとるんだろうね。
S：(息を大きく吸い込んで、下に向かって泳いでいくジェスチャー)(1999年12月8日の授業記録より)

しかし授業の進行とともに文章内容に関する情報が増えて来るにつれ、Sは蓄えた情報をもとにしながら情景を考えることができるようになってきている。

S：あ、ねえねえ先生。この石のどこね、中ね。なんか、こう、いるよ、魚。
T：石の中に？
S：これ石だろ。
T：そう、小さいのは石。
S：石だろ、それ。と、ここに何かあるけど、ここん中、クエいる。
T：中に？
S：中に。(石の絵を描いて板書)これだろ。
T：あー、住んでいるってということ？
S：そうそう。
T：へー、そういうふう考えたの。いいじゃない。ちょっと書いておきましょう。クエのおうちみたい。へえ。
S：だってねえ、何だっけ、そこの石のところで、クエあるんだよ。
(注)クエの住処について述べている記述は本文にはない。(2000年2月9日の授業記録より)

4、文章を読んで「心情を把握する」ことは当初からSにとっては困難な課題であった。それは「悲しい」「さびしい」などの感情表現に関わる語彙が乏しかったことによる。

S:(大好きなじいさんが死んだときの気持ちを聞かれて)なんたる。(中略)
T:悲しい気持ちってわかるかな。
S:わかんない。
T:わかんない。英語でわかるかな。
S:.....
T:寂しいはわかるかな。
S:寂しい、わかんない。(2000年1月12日の授業記録より)

学校における文学的文章の授業では、心情把握は重要な学習である。それも「感情表現を手がかりに心情を把握する」という段階から「行動を手がかりに心情を考える」と進み、「様子を手がかりに」さらには「情景描写から考える」という段階へと進んでいく。Sの場合は「感情表現を手がかりに」という最初の段階で早くもつまづいている状況であった。ところが5ヶ月後の授業では

S:(じいちゃんは)何でうれしいなんだ? (中略)
S:***だろ。大好き、大好きだって、ほら。(中略)
T:大好きだよって言ったから、うれしくなったんだよね。よくわかったね。
(2000年6月13日の授業記録より)

のように、簡単な語彙ではあるが感情表現を扱える場面がでてきている。では「行動を手がかりに心情を考える」という一段進んだ段階の質問はどうだろうか。

T:(お父さんは)どうして泣いたの?
S:おじいちゃんのことだ。
T:おじいちゃんがどうなの?
S:ん?あのね。ここに書いてある。もう大丈夫だって書いてある。
(中略)
T:おじいちゃんが大丈夫だと、どうしてお父さん泣いちゃったの?
S:気持ちだよ。
T:気持ち、どんな気持ちになっちゃったの?
S:なんかね、なんかね、「よかったね、お父さん」。(略)おじい、あの、もう大丈夫って言ったじゃん。よかったとか言って泣いちゃったの。(2000年6月27日の授業記録より)

上の例は、父親の「泣く」という行動、医者「もう大丈夫」という言葉を手がかりに、文章中には説明されていない父親の心情を想像して答えたものである。同じような例として、危篤状態の祖父がうわごとで孫娘を自慢し、それを聞いた孫娘が涙するという場面では

S:「私(孫娘)はなぜ泣いたのだと思いますか」(2000年6月13日の授業記録より)

という質問を行ったが、これには十分には答えることができなかった。つまり、小学校3年生から出現する「行動を手がかりに心情を考える」という課題は、その状況設定や心の動きの複雑さによって難しさの度合いが違ってくるためであろう。

なお、「様子や情景描写から心情を考える」という質問は全く設定しなかった。まだそのレベルに達してないと判断したためである。

5、「主題の把握」

T：どうして（海の命は）変わらなかったの？

S：1匹だよ。（略）1匹、1匹、ずっと。（2000年2月9日の授業記録より）

「なぜ海の命は変わらなかったのか」は物語の主題そのものを問う質問である。Sは「千匹に1匹でいいんだ」という物語の中頃にでてきたセリフを念頭に置きながら答えている。「千匹に1匹でいい」という表現について、Sは「千匹つったら魚がいなくなっちゃう。魚がいなくなったら食べるものがなくなっちゃう」という趣旨のことを説明したが、そのことと「海の命は変わらない」ということとがしっかりと結びついていることがうかがえる。一方、O小学校の児童も同様に「千匹に1匹でいい」という部分と結びつけながら、「人間と海の共存」「人と自然の共存」「海の命の大切さ」「海と共に謙虚に生きる」と一般化された表現で主題を説明している。両者を比べればSの言葉は稚拙であり説明の仕方も一般化されてはいない。しかし説明に使われた表現のレベルに違いはあっても、主題に関してSのとらえたこととO小学校の児童がとらえたこととは共通線上にあると考えられる。

「主題の把握」に関しては小学校5、6年生のレベルで課題をこなすことは難しい。しかし主題につながる人物の行動や心情について考えていくことは可能であるといえよう。

6、「感想や意見」は、「登場人物に対する感想」「登場人物と自分との比較」や「自分だったらどうするか」という観点から生じたものが多い。

S：太一、ヒーローだ。

T：ん？

S：太一、ヒーロー。

T：ヒーロー。うんうん。何で太一はヒーローだと思った？

S：だって死んでないよ、全然。

S：うーん、強いから。（タガログ語とつりのジェスチャー）

S：あと、海、できるよ。（泳ぐジェスチャー）

（2000年1月19日の授業記録より）

S：《テープを聞いて》（主人公の太一と自分は）同じ。

T：（略）何が同じなの？

S：お父さんとお父さん。海でやる、つり。

（2000年1月19日の授業記録より）

こうした感想の背景には、母語訳テープやそれまでの学習によって、人物の行動や心情に関する情報が学習者の中に十分蓄えられていることが推測される。

7、「表現を味わう」ことに関する質問は全く行っていない。

最後に【表 - 26】の結果を踏まえて、学習者Sの内容理解に関する到達度を次のようにとらえてみた。

【図 - 7 学習者 S の内容理解の到達度】

【国語の学習（読むこと）に必要な思考力の育成モデル】（「ことば・国語科カリキュラム試案 - 思考力を軸として」『お茶の水大学附属小・中学校研究紀要（1999年）』掲載の資料をもとに作成）

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	学習者 S の到達度
語句	・言葉の意味がわかる			→	・言葉や文の意味を正しくとらえる	→	<input type="checkbox"/>
主に文学的文章に関わる力	・あらすじがわかる			→	・内容のつながりを理解する	→	<input type="checkbox"/>
	・誰が / どうしたかわかる			・人物相互の関わりをとらえる		→	<input type="checkbox"/>
	・様子を思い浮かべる	・様子を想像する		・情景を表す表現に気をつけながら読む		→	<input type="checkbox"/> → <input checked="" type="checkbox"/>
		・人物の気持ちがわかる ・気持ちや様子を表すことばを見つける		→	人物の心情を豊かに想像する	→	<input checked="" type="checkbox"/>
			・人物の行動と気持ちのつながりがわかる		・情景描写と心情のつながりに気づく ・作品の主題を考える	→	<input type="checkbox"/> → <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
感想・意見	・人物に関して思いや考えをもつ			自分とはちがうものの方や感じ方に気づく	→ <input type="checkbox"/>	・自分なりの意見をもつ	<input type="checkbox"/> → (-)
表現			・優れた表現がわかる	→ <input checked="" type="checkbox"/>	・情景表現を味わう	・優れた描写や叙述を味わう	x

（記号の見方） 十分備えている 不十分ではあるが備えている x 全く認められない